

ストップ川内原発再稼働！ 9.28鹿児島アピール

日本全国の皆さん！ 世界の皆さん！ 私たちは2011年3月、原子炉が次々にメルトダウンし爆発するという、史上最悪レベルの福島第一原発事故を目の当たりにしました。事故から3年半たっても、事故の原因は解明されず、汚染水は地球を汚し続けています。放射能に追われ、家やふるさと、日々の暮らしを奪われたままの人々が13万人もいます。しかし日本政府と原子力規制委員会、九州電力は、「川内原発1・2号機の再稼働」を、がむしゃらに進めようとしています。それは人類に対する犯罪行為です。私たちは、川内原発再稼働をただちに断念することを求めます。原子力に依存しない社会への転換を、強く訴えます。

規制委員会は9月10日、川内原発1・2号機が「新基準に適合する」として「審査書」を決定しました。地震問題、火山問題、テロ対策などで多くの専門家が深刻な危険性を指摘していますが、それらを無視したままです。私たちのいのちに直結する「避難計画」は審査の対象にもなっていません。

一方、伊藤知事は6月、鹿児島県防災会議が策定した「地域防災計画・原子力災害対策編」を踏みにじり、原発から10^{km}以遠の要援護者の避難計画は「作らない」と発言しました。災害対策基本法は、知事の責務として「住民の生命、身体及び財産を災害から保護する」と明記しています。「避難計画を作ることができないのだから、再稼働は認められない」と言うべきです。政府、知事、九電も、まるで「重大な原発事故は起こらない」と考えているかのようです。「安全神話」の復活です。

福井地裁は5月21日、関西電力・大飯原発の運転差し止めを命じました。「電気を生み出すための一手段」にすぎない原発が、万一の事故の場合、憲法上の最高の価値である「生命を守り生活を維持する人格権」を侵害する危険があると認めました。しかも、「地震大国日本において、基準地震動を超える地震が…来ないというのは根拠のない楽観的見通しにしかすぎない」とまで言い切っています。政府、九電はこの指摘に謙虚に、真剣に向き合うべきです。

10月9日から県内5カ所で「住民説明会」が開催されます。鹿児島県はこの説明会を再稼働ゴーサインの場に利用しようとしています。そうさせるわけにはいきません。

いま県内では再稼働ノーの声が次々と上がり始めています。いちき串木野市で人口の半分を超える住民が「避難計画がない中での再稼働反対」に署名しました。30^{km}圏にかかる姪良市議会が「再稼働反対」とどまらず「川内原発1・2号機の廃炉」を求める意見書を採択し、いちき串木野市議会、日置市議会では「再稼働の地元同意権」を求めています。これが県民の意思です。

原発は人類と共存できません。使用済み核燃料という「核のゴミ」は、誰も処理できない人類の負の遺産です。再稼働によってこれをさらに増やしてはなりません。太陽の光、風の力、地球の熱、生物の力—そんな地球にやさしいエネルギーを使いましょう。私たちは強く訴えます。鹿児島にも、日本にも、地球にも、原発はいらない！ 原発なしで暮らそう！ いま一度、あの3・11を、そして、福島の実現をしっかりと見つめよう！

- 川内原発1・2号機を再稼働するな！ 廃炉にせよ！
- 全国すべての原発の再稼働は許さない！
- 再生可能な自然エネルギー社会へ移行しよう！

2014年9月28日

「ストップ川内原発再稼働！ 9.28全国集会」参加者一同（天文館公園7,500人）